

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3579100076		
法人名	医療法人おかはら会		
事業所名	グループホームほうばいの絆		
所在地	大島郡周防大島町小松91-4		
自己評価作成日	令和4年8月21日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく生き活き輝いて、生きていけると実感できる居場所を作ること」 「安心して生活していただくために、その方のお気持ちを一番に考えること」 「ご家族や地域との繋がりを大切に、皆で支え合って生きていくこと」 この理念を掲げ、日々の取り組みをおこなっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念に加えて、基本方針、行動理念、人事理念を全職員で作成され、「安心できる」「生きている」が実感できる居場所づくり、職員が、利用者のことを一番に考えられ、自らの行動に愛情があるかどうかを振り返えられながら、日々の実践につなげておられます。職員は、利用者のこれまでの生活や家族関係、環境、出来事など年代別の記録、利用者の人生のモットー、性格、得意な事、苦手な事、好きな食べ物などについて聴取されたアセスメントシートや普段の介護記録から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努められ、それを日々のケアの中に活かされています。年間を通して、企画された日々の行事やレクリエーション、生活リハビリは、職員のアイデアあふれるネーミング(コーヒーを楽しむ会、オリンピック応援DAY、浴衣美人の会等)にも見られる他、外出行事においても、敷地内で春風を感じに行く散歩やのんびりとした散歩、ふれあい市場での買い物、大島大橋でのスケッチ、ドライブ(写生、スケッチツアー、墓参り、思い出の場所、ハワイ気分の温泉、鯉のぼり見学ツアー、初詣、神社)に出かけられるなど、利用者それぞれのできること、したいこと、好きなことをみつけられて、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援されています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初からの理念に加え、今年度、基本方針、経営理念、人事理念、ビジョンを全職員で作成した。今まで以上に、共有が出来たのではないかと感じる。	地域密着型の意義をふまえた事業所の理念に加えて、基本方針、行動理念、人事理念を全職員で作成し、事業所内に掲示している他、毎月のミーティングで確認し共有している。職員は、利用者を一番に考え、自らの行動に愛情があるかどうかを振り返りながら、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、交流の場は持てていない。美容師さんには抗原検査で陰性を確認後、ホーム内でカットをしてもらっているが、他のことについては日常的に交流するには至っていない。	毎年実施されていたふれあいフェスタや夏祭りなどの地域行事や法人の秋祭りがコロナ禍で中止となり、沢山の人たちとの出会いは少なくなったが、利用者は、事業所内で行った亥の子、敷地内で 開催しているふれあい市場で、地元の人が出店している花や野菜、乾物を購入するなどして地域の人と交流している。美容師の訪問は継続している他、研修医の来訪がある。地元のグループホームによる移動キッチンカーからの差し入れを検討中。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族へは発信しているが、地域への発信は出来ていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全職員に記入してもらっている。取りまとめて結果を伝え、フィードバックするようにしているが、改善箇所について全部の対応は出来ていない。	管理者がミーティング時に、ガイドラインを活用して評価の意義について職員に説明している。自己評価のための書類を配布し記入したものを管理者がまとめ、ミーティング時に全職員で確認している。自己評価をすることで、職員それぞれの日常の業務の振り返りとしている。全体の評価を通して、地域との交流や地域に向けた情報発信の機会が少なくなっていることを課題に掲げ、「地域から必要な場所になる」ことを目標に、ホームページを活用した情報発信の活性化や職員意識の向上など、評価を活かした改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大に伴って、メンバーで集合して会議をすることが難しい月が多かった。特に今年度は一度も出来ていない。文書を全メンバーに配布し、意見や気づきをFAXで返してもらう方法で対応している。	会議は年6回開催しているが、感染防止対策から4回は文書開催としている。利用者の状況や事業所の行事、事業所だより、インシデント・アクシデント報告、コロナウィルス及び感染防止対策、外部評価について、キャリア段位制度及び人事考課の説明を行い、意見交換をしている。年1回は、グループホームの様子をスライドで上映して振り返っている。参加者からは、コロナウィルスに対する感染対策について質問があり、面会対策も含めて丁寧に説明している	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に連絡し合っているということはない。運営推進会議での報告が主だったが、会議の開催ができていないので、文書のやり取りが主になっている。	町担当者と地域包括支援センターの職員が交代で運営推進会議に参加している。町担当者とは、電話やファックス、メールで相談や助言、指導を得る他、地域ケア会議にオンラインでの参加をして情報交換を行うなど、日頃から協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に一回おこなっている。また、年2回以上の内部研修も実施している。	職員は、身体拘束や高齢者虐待について、月1回のミーティングで学び、抑制や拘束をしないケアに努めている。研修の講師は、職員が交代で行っている。身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月毎に意見交換をしている。年2回、職員が振り返りシートで自己点検を行い、ミーティング時に検討している。玄関の施錠はしていないが、利用者が外出したい時には声かけや一緒に外に出かけるなど対応している。スピーチロックについては、職員同士で注意し、気になる言動があれば、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の振り返りシートで、各自、自分のケアについて反省する機会を持っている。また、今年度から毎月ミーティングで、高齢者虐待についての文書研修・動画研修をおこなっている。職員のセルフメンタルケアについての研修もおこなった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回以上の研修をおこなっている。成年後見制度にスポットを当てての研修もおこなった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明をおこない、同意を得ている。問い合わせには随時対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今はホーム内で面会ができないので、玄関に設置している意見箱への投書はない。苦情対応について入居時に説明しているが、苦情はあがっていない。苦情は「家族からは言いにくい」ことである意識は全職員に持ってもらうように伝えている。	契約時に、苦情や相談の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。家族からは、面会時や、運営推進会議参加時、電話などで家族からの意見や要望を聞いている。事業所のホームページで利用者の様子を伝えたり、毎月事業所だより送付時に、管理者が個別に利用者の状態や日常の様子を写真や文章で伝え、家族から意見が出やすい関係づくりに努めている。誕生日や敬老の日には家族からのメッセージを依頼している。個々の利用者のケアに関する要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ラインワークスで法人の全職員がオープンなやり取りができる状況になった。管理者は面談で聞いた職員の意見を代表者に伝えているが、賃金の水準が低いことや人員不足については改善が難しい現状がある。	月1回のミーティング時に、必要に応じて代表や所長が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けて意見を聞いている他、リモートワークのツールを活用して全職員がオープンな情報共有をしている。管理者が面談で聞いた意見や要望は、代表の来訪時に伝えている。職員からの、介護報酬や給与面での意見、勤務体制など意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、賃金アップにつながる仕組み作りをしてきている。…が、賃金は低く、一家の大黒柱が働くにはとても厳しい現状。各事業所ごとに掲げた理念や基本方針に沿った人事考課表を作り、もっと給料に反映できるように…と検討してくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアアップ、就業環境の整備に努めてくれている。理念にのっとって仕事をしている人が評価される仕組み作りを整えてくれている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や経験年数、段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。実践者研修、キャリアパス対応生涯研修、看取りにおけるメンタルケア等に参加している。受講後は、出張復命書を作成し、ミーティングで報告している。研修資料はいつでも閲覧できる。内部研修は、年間計画を作成して、職員が交代で講師を務め、権利擁護、災害時について、看取り、誤嚥・窒息について、ノーリフトポリシー、AED研修、接遇マナー、褥瘡予防等について学んでいる。職員の資質向上の取り組みとして、介護プロフェッショナルキャリア段位制度を導入し、職員一人ひとりの目標を立て、職員の介護技術や知識の評価を行い、サービスの質の向上を図っている。資格取得については情報提供を行っており、法人として経費の助成もある。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOM研修や地域ケア会議に参加して、同業者との交流を図っている。しかし、具体的な取り組みは少なく、報告を聞き合う程度にとどまっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時、落ち着いた環境でコミュニケーションを取りながら、まずは傾聴することを意識して、お話しをお聞きしている。その上で、安心してご自分の気持ちを言うことができる環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が一番困っていることは何か、しっかり傾聴しお話を伺っている。お気持ちに寄り添って、安心していただける関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんなことに困っていて、何を必要としておられるか…、各サービスを念頭に置き、ご説明するようにしている。変更や追加にも柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側が「皆さんの場所にお邪魔している」と捉え、ご入居者が主役だということを忘れないように関わっている。「出来ることはご自身で、困っていることをスムーズに」対応していけるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に一緒に考えていく関係作りに努めている。随時の電話、季節の手紙のやり取り、面会（現在はガラス越し）を重ね、話す機会を多く持つようにしている。毎月の郵送物に必ず管理者手書きのお手紙を添え、気持ちを届けるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大のため、なかなか難しい現状があるが、季節ごとのお墓参りや、地元へのドライブ、なじみの美容師さんの出入り等で、関係継続に努めている。	家族や親戚の来訪がある他、電話の取り次ぎや携帯電話の支援、年賀状や手紙、ハガキでの交流を支援している。面会は、ガラス越しやビデオ・リモート通信などで工夫している。事業所として、季節ごとの墓参り、初デートの場所など利用者の思い出のある場所へのドライブ、馴染みの美容師の出入りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名が生活している場なので、多少のトラブルはあって自然だと考えている。しかし、引きずらないように、ケガをしないように等の配慮は必要。仲が良い人同士で話をする場面を作ったり、職員が潤滑油になって皆でのトークに花を咲かせたりする努力はしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が時々お手紙を書いて送ったり、ご家族から会いに寄ってくれたりすることがある。頻繁ではないし、限られたご家族にとどまっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者がほうばいの絆の主役だという考えは絶対に常に持つようにしており、あらゆる場面で思いをお聞きしたり、承諾を得たりするようにしている。口にしたことが本当の思いなのか…と振り返り、思い込みで決めつけることがないように注意している。	入居時に、「今までの生活について、家族関係、住まい、環境、出来事などを出生から現在まで年代別の記録」、「入居に関して、利用者の人生のモットー、性格、得意な事、苦手な事、好きな食べ物、嫌いな食べ物、最後の迎え方の記録」について家族から聞き、アセスメントシート(ADL、IADL)と併せて活用している。日々の関わりの中での利用者の言葉や行動を介護記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。利用者からの把握が困難な場合は、家族から聞き取り職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずはその人を知ることから始めなければ、ケアは出来ないと考えている。事前に聞けることは情報を収集し、職員に伝えているし、ご入居後、分かったことは連絡ノートやケア記録に記載し、周知するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長年過ごしてきた環境が皆さん違うので、出来るだけその人のペースを重視して関わっている。瞬間・瞬間で違うことが当たり前なので、「今」を大事にする関りや、「今までこうだったから」という決めつけをしないように心がけている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は担当者が3か月ごとに作成し直している。その際、必ずご本人とご家族に意向をお聞きして、それを落とし込んだ計画を立てるようにしている。モニタリングについては毎月担当を変えチームで情報収集するようにしている。	計画作成担当者を中心に、利用者の状態や思い、家族の意向、主治医の意見、法人の看護師の意見を聞いて話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、3か月毎に見直しを行っている。利用者の状態に変化がある場合はその都度内容を見直し、現状に即した介護計画を作成している	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その場に居なかった人が読んでも分かる細かい記録をするように心がけている。その人の言葉はそのまま記す。医療的なことは赤色で、ご家族とのやり取りは青色で記録。しかし、忙しい時の記録は薄っぺらい印象になっている場合があるのも事実。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご状態は日々変化する。どう対応したらご入居者にとって最良かを常に考えて、実行できるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大のため、今までのように自由に出入りが叶わなくなり、制限がかかっている現状。しかし、なじみの美容師に来てもらったり、近所の店舗へ人が少ない時間に行ったりして、出来るだけ楽しんでいただくようにしている。情報収集はまだ不十分だと感じる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居されたときに、主治医について相談しご理解を得て、結果的に全員、法人の理事長が主治医。連携が取りやすく、緊急時や看取り時の対応にも柔軟な支援ができています。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、定期的に受診している。利用者の状態に合わせて、月2回訪問診療を行っている。他科や専門医への受診は、かかりつけ医の情報提供書を持参し、家族の協力を得て事業所が支援をしている。希望に応じて歯科の訪問診療がある。家族への受診結果の報告は電話で行い、検査結果は郵送している。緊急時や夜間は、協力医療機関と連携し適切な医療が受けられるよう支援している	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと医療連携の契約を結び、毎週1回、健康観察に来てもらったり、24時間の支援を受けられる仕組みを整えたりして、適切な看護が受けられるようにしている。主治医との連絡係にもなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今はご家族以外への情報提供が難しい場合が多いので、ご家族から連絡をもらうようにしている。その際の窓口は管理者。連携医療機関職員は、当事業所の運営推進会議のメンバーになってもらっていたり、病院主催の地域ケア会議に管理者が参加したりして関係作りをしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りの指針についてご入居時に説明をしている。また意向確認を1年に1回おこなっているし、その状況になったときにも、話し合うようにしている。	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、重度化や終末期の対応について、家族に説明している他、年に1回は意向確認を行っている。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向を踏まえて、かかりつけ医と話し合い、福祉施設や医療機関への移設を含めて方針を決め、職員全員で共有し支援している。看取りについても対応している	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント・アクシデント報告書は、その日の内に記入し回覧、月ごとに取りまとめて振り返る機会を設けている。また、必要な内容のときは、患部や状況を写真に撮り報告書に載せて、誰が見ても分かる報告書作成を意識している。	発生時には、その場に居た職員が対応すると共に、インシデント・アクシデント報告書に、発生場所、種類、原因、状況、対応、対策を記録し、月1回のミーティングで話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。月1回開催される法人の安全対策委員会に報告し、再発防止の話し合いを行っている。内容は、必要に応じてリモートワークツールを活用して情報共有している。内部研修で、誤嚥、窒息などの対応について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での避難訓練をおこなっている。(地震・水害を想定し、それぞれ別日程で)また、事業所内でも不審者対策や、ご入居者の避難について訓練をしている。	災害対策マニュアルを整備し、法人全体で年3回、水害、地震、火災を想定した訓練を実施している。内1回は消防署の協力を得て、利用者も参加して通報・避難誘導・避難経路の確認、消火訓練を行っている。事業所独自で年1回、火災時の避難通報訓練を実施している。緊急連絡網は、法人間でリモートワークツールを活用して対応している。災害時の備蓄として、水、缶詰、スープ、レトルト食品など三日分の食料、ガスコンロ、懐中電灯、介護用品、ポリタンクなどを準備している。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回、接遇や関り方、心構え等にフォーカスした振り返りをおこなうことを続けている。人として尊敬すべきご入居者への言葉遣いや態度には十分配慮し、プライバシーに関することは隠語やイニシャルで対応するなどしている。	職員は、内部研修で接遇マナーや利用者との関わり方や心構えについての振り返り(年2回)を実施しており、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに注意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけることをしない、選択しやすい質問の仕方をする等、小さなことでも自己決定できるように支援している。しかし、「何でも良い。あなたが決めて」という答えが多いのも事実で、難しさを感じる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大事に関わるよう努めている。しかし、皆さんの介護量が増大した上に、この8月から職員が1名減ったため、それが困難な場面が増えた。その際はご説明し、ご理解を得るようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの習慣や、好みに配慮して関わっている。また、髭剃り・顔そり・爪切り・耳掃除など、身だしなみに注意したり、女性にはお化粧をしてもらったりするなどし、支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、感染予防のため、一緒にお料理をすることが激減している。しかし、個別にご自分のおやつやお握りを作ってもらうこと等は続けている。、	食事は、外部の業者に委託しているが、月1～2回、利用者と職員と一緒に食事づくりをしている。献立は、利用者と一緒に話し合っ決めて、食材は職員が買っている。利用者は、野菜を切るなどの下ごしらえなど、できることを職員と一緒にしている。ミキサー食やソフト食など食事形態にも配慮している。季節の行事食(おせち、七草粥、恵方巻、おはぎ、敬老の日の特別食、クリスマス、餅つき、年越しそば)、秋まつりには好きなメニューのおでん・刺身・寿司、誕生日会のケーキ、おやつづくり(たい焼き、白玉団子、あん餅、きなこ餅、ぜんざい、フルーツポンチ、チョコバナナ、かき氷、クッキー、クレープ、プリン、ゼリー、いちご大福)、花見の弁当やお菓子など、食事を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録し、一日通しての水分量も把握するよう記録している。身体状況に合わせた食事形態や、制限食、水分量にも注意している。それ以外にも、食べやすいアイスやゼリー等で栄養補給をする等の対応もしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ毎食後、口腔ケアをしてもらうよう働きかけている。また口腔ケアスポンジやマウスウォッシュなど、その人に合わせたものを使用してもらうようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、パターンの把握に努め、出来るだけ失敗しないように対応している。しかし、高齢化に伴って失敗の回数が増えたり、今までにない失敗が増えたりしている現状もあり、紙パンツの使用を減らすことは出来ていない。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、牛乳摂取、腹部マッサージ、運動をする等働きかけているが、便秘薬でのコントロールが主流になっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が減ったことや、同性介護の観点から、夕方入浴ができない日が増えた。重度化しているご入居者は、可能な時に他事業所の機械浴を使用する場合もある。時間が早まっても、そうでなくても必ず、ご本人に意志を確認したり、お風呂に入りたいお気持ちになっていただくような声おかけをしたりして、工夫している。	入浴は毎日、9時から15時30分までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。お湯は一人ひとり入れ替え、季節に合わせてゆず湯や晩白柚湯、入浴剤で香りを楽しむなど、気持ちよく入浴できるように支援をしている。利用者の状態に応じて、シャワー浴や清拭、足浴で対応している。入浴をしたくない人には、声かけや職員の交代や時間の変更、車いすの利用で対応している。可能な時には、他事業所の機械浴を利用している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度にも配慮し、その人が休みたい時に休みたい場所で…と関わっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情や主治医からの説明等で確認しているので、大体のことは把握しているが、まだまだ出来ていない面がある。薬の副作用についてはその都度調べて勉強するようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な毎日にならないようにする、感情を動かす時間を大事にするなど、配慮して関わっている。今までの習慣や得意なことを活かす場を設けるよう努めたり、生きていると実感できるような支援をしたりするよう心がけている。	テレビ(高校野球やオリンピックなどのスポーツ)やDVD(昔の映画、動物もの)の視聴、CDを聴く、歌を歌う、歌かるた、読書、新聞を読む、チラシを見る、古新聞で袋を折る、習字、写経、トランプ(ババ抜き)、大島かるた(読み手、取り手、方言の解説)、しりとり、ゲーム(ポボッチャ、パズル、的あて、輪投げ、パン食い競争)、ラジオ体操、化粧、ハンドマッサージ、ネイル、アロママッサージ、フラワーアレンジメント、保存食づくり(しそ漬、干し柿)、食事の手伝い(下ごしらえ)、洗濯物たたみ、掃除機による掃除、床拭き、花を生ける、縫い物(マスク、雑巾、クッションカバー、ボタン付け、ゆかた、繕い物)、着付け(浴衣、着物)、編み物、プランターの世話(トマト、ナス、キュウリ、シソ)、イチジクの収穫、お寿司パーティー、スイーツパーティー、コーヒーを楽しむ会、オリンピック応援DAY、浴衣美人の会、ギターライブ、バレンタインデー、ハロウィン、亥の子など、利用者一人ひとりのできること、したいこと、好きなことをみつけて、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大のため、制限がある中でおこなっている。人が少ない時間帯や、車窓から景色を見るドライブなどで地元を訪れるなど、慎重に対応している。	コロナ禍で事業所としての外出の機会が少なくなっているが、敷地内で春風を感じに行く散歩やのんびりとした散歩、ふれあい市場での買い物、大島大橋でのスケッチ、季節の花見(桜、紅葉)、ドライブ(写生、スケッチツアー、墓参り、思い出の場所、ハワイ気分の温泉、鯉のぼり見学ツアー、初詣、神社)に出かけている他、利用者の希望に沿って個別に出かけられる機会を設けて支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持しているご入居者は1名。あとは職員が管理している状況。今は買い物へ一緒に行ける環境ではないので、店舗での支払い機会もなし。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話すこと、季節の手紙を送ること等の支援を継続している。お誕生日や父の日、母の日にはメッセージをもらうこともおこなっている。稀だが、ビデオ通話をする場面もある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも清潔で落ち着く空間であることを心がけている。お花を飾ったり、季節ごとの飾り付けをしたりして、雰囲気作りにも配慮している。	玄関には、利用者と職員の写真、利用者の作品を飾り、季節ごとに飾り付けを変えている。明るく広々とした食堂兼居間には和室があり、台所から見通せる空間が広がっている。食堂とリビングにテレビが置いてあり、その前でくつろげるようソファが置いてある。廊下には椅子を置き、和室には文庫コーナーが設置しており、利用者が思い思いの時間が過ごせるよう工夫している。壁には、折紙、習字、スケッチなど利用者の作品や写真、似顔絵、季節の壁かざりで季節を感じるよう工夫をしている。食事時には、野菜を刻む音やご飯が炊きあがる匂いなど家庭の雰囲気が味わえ、生活感を感じることができる。温度、湿度、換気に配慮して利用者が心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室、食堂、お部屋など、過ごしたい場所で、好きな人と過ごせるように働きかけている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の私物や好みの日用品、写真等で空間を満たしてもらい、安らげる場所作りを心がけているが、タンスや棚は新しく購入してくる人が殆ど。	箆笥、衣装ラック、整理棚、本棚、食器棚、食器、冷蔵庫、テレビ、ラジオ、CDラジカセ、ビデオデッキ、机、椅子、本、時計、ぬいぐるみ、化粧品、ヘアブラシ、衣類など 使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。家族の写真や自身の写真、カレンダー、祝いの色紙、100歳のピンクのちゃんちゃんこ、造花などを飾って利用者が安心して、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室入り口の自筆の表札などで、案内表示をしているが、高齢化に伴う身体機能衰退や認知症の進行で、お一人で移動するご入居者が減っている。また、車いす使用率が上がり、環境が手狭になっている印象がある。		